

沖縄県の文化にかかる基礎調査

沖縄県特命推進課
令和2年10月23日

目次

1)文化施設の入場者数	
①県立博物館・美術館の入場者数	1
②国立劇場おきなわ自主公演入場者数	1
2)担い手数等	
①伝統芸能	2
②沖縄空手	5
③伝統工芸	6
④伝統行事・民俗芸能など	8
⑤県立芸術大学の卒業生	10
3)生計と文化活動の関係	
①伝統芸能	11
②沖縄空手	12
③伝統工芸	13
4)各種意向調査	
①県民の文化振興に関する意識	15
②文化芸術団体の文化振興に関する意識	18
③市町村の文化振興に関する意識	20
5)県外・海外に所在する沖縄県連文化財の動向	
①在外沖縄関連文化財の背景	22
②在外沖縄関連文化財調査	23

1)文化施設の入場者数

①県立博物館・美術館の入場者数

県立博物館は、昭和 21 (1946) 年に米軍から沖縄民政府に移管された「東恩納博物館」と昭和 22 (1947) 年に首里市から沖縄民政府に移管された「首里市立郷土博物館」をルーツとしている。昭和 47 (1972) 年の本土復帰に伴い、「沖縄県立博物館」となった。その後、平成 19 (2007) 年 11 月に美術館を併設した「沖縄県立博物館・美術館」として、那覇市おもろまちへ新築移転した。入場者数は、開館した翌年度の平成 20 (2008) 年度から平成 30 (2018) 年度まで、年平均で約 48 万人となっており、県民が沖縄の自然、歴史、文化、芸術に触れる機会の充実が図られている。

沖縄県立博物館・美術館の入場者数

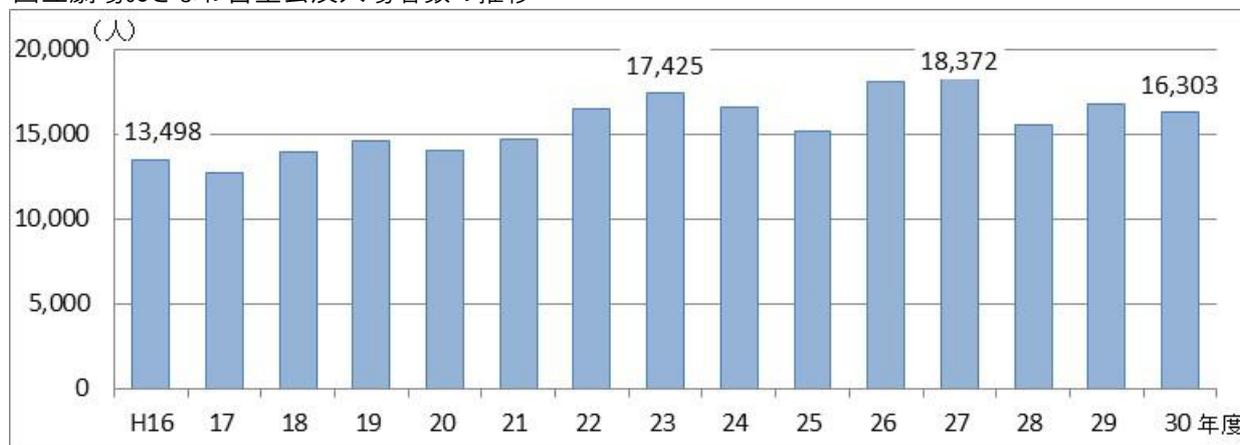


※「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」（沖縄県、令和 2 年 3 月）より

②国立劇場おきなわ自主公演入場者数

国立劇場おきなわは、ユネスコ無形文化遺産「組踊」や国の重要無形文化財「琉球舞踊」のほか、三線音楽、沖縄芝居、民俗芸能などの公開等を行うことで沖縄伝統芸能の振興を図っている。自主公演の入場者数は、平成 16 (2004) 年度の 13,498 人から平成 30 (2018) 年度の 16,303 人と増加している。

国立劇場おきなわ自主公演入場者数の推移



※「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」（沖縄県、令和 2 年 3 月）より

2)担い手数等

①伝統芸能

■無形文化財保持者

国の重要無形文化財（芸能）として6種、県指定無形文化財（芸能）として8種が指定を受けている。これまで無形文化財保持者として認定を受けた人数は、重要無形文化財 178 人（うち物故者 52 人）、県指定無形文化財 536 人（うち物故者 229 人）である。

国指定重要無形文化財(芸能)

No.	名 称	指定年月日	保持者(代表者)	保持団体	備 考
1	組踊	昭47. 5.15 〔 昭42.6.5	(眞境名正憲) 琉球政府重要無形文化財	一般社団法人 伝統組踊保存会	
2	琉球古典音楽	平12.6.6	照喜名 朝一 島袋 正雄		「130.4.24物故により指定解除
3	組踊音楽歌三線	平17. 8.30 平23. 9. 5	城間 徳太郎 西江 喜春		
4	組踊立方	平18. 9.15	宮城 能鳳		
5	琉球舞踊	平21. 9. 2	(宮城 能鳳)	琉球舞踊保存会	
6	組踊音楽太鼓	平29.10.2	比嘉 聰		

※「文化財課要覧（令和元年度版）」（沖縄県教育庁文化財課、令和元年 11 月）より

県指定無形文化財(芸能)

No.	名 称	指定年月日	代 表 者	保 存 団 体
1	沖縄伝統舞踊	昭47.12.28	玉城 千枝	沖縄伝統舞踊保存会
2	沖縄伝統音楽野村流	〃	勝連 繁雄	沖縄伝統音楽野村流保存会
3	沖縄伝統音楽安富祖流	〃	照喜名 朝一	沖縄伝統音楽安富祖流保存会
4	沖縄伝統音楽湛水流	〃	島袋 英治	沖縄伝統音楽湛水流保存会協議会
5	沖縄伝統音楽箏曲	〃	宮城 光子	沖縄伝統音楽箏曲保存会
6	八重山古典民謡	昭58. 3.31		八重山古典民謡保持者協会
7	琉球歌劇	平元. 9.29	吉田 妙子	琉球歌劇保存会
8	八重山伝統舞踊	平16. 5.14	登野城 米子	八重山伝統舞踊保存会

※「文化財課要覧（令和元年度版）」（沖縄県教育庁文化財課、令和元年 11 月）より

		認定者数(A)	物故者数(B)	(A)-(B)
重要無形文化財	組踊	105	41	64
	舞踊	29	14	15
	三線	44	17	27
	箏	17	6	11
	笛	6	2	4
	胡弓	4	0	4
	太鼓	5	2	3
	琉球古典音楽	2	1	1
	三線	2	1	1
	組踊音楽	5	1	4
	太鼓	2	1	1
	歌三線	2	0	2
	立方	1	0	1
	琉球舞踊	66	9	57
	舞踊	27	2	25
	三線	21	4	17
	箏	12	2	10
	笛	2	0	2
	胡弓	1	1	0
	太鼓	3	0	3
	重要無形文化財 保持者 合計		178	52
県指定無形文化財	沖縄伝統舞踊	70	36	34
	舞踊	37	20	17
	三線	14	7	7
	箏	9	4	5
	笛	3	2	1
	胡弓	5	1	4
	太鼓	2	2	0
	沖縄伝統音楽野村流	157	80	77
	三線	139	72	67
	笛	7	2	5
	胡弓	6	3	3
	太鼓	5	3	2
	沖縄伝統音楽安富祖流	72	26	46
	三線	61	21	40
	笛	5	1	4
	胡弓	4	2	2
	太鼓	2	2	0
	沖縄伝統音楽湛水流	20	10	10
	三線	20	10	10
	沖縄伝統音楽箏曲	116	41	75
	箏	116	41	75
	王府オモロ五曲六節	1	1	0
	保持者	1	1	0
	八重山古典民謡	38	11	27
	三線	38	11	27
	琉球歌劇	47	22	25
舞踊	3	3	0	
地謡	6	3	3	
踊方	38	16	22	
八重山伝統舞踊	15	2	13	
舞踊	15	2	13	
県指定無形文化財 保持者 合計		536	229	307

※「文化財課要覧（令和元年度版）」（沖縄県教育庁文化財課、令和元年11月）より整理

■国選定保存技術保持者

国選定保存技術として、組踊道具製作1人（物故により解除）、結髪（沖縄伝統芸能）1人、組踊道具・衣裳製作修理1団体が選定されている。

■組踊

組踊の保持団体として「一般社団法人伝統組踊保存会」がある。国指定重要無形文化財「組踊（総合認定）」の認定を受けた保持者によって構成され、現在の人数は各部門合計で75人である（保存会ホームページより）。この他、保存会の実演家の存在や国立劇場おきなわの組踊研修制度、国・県補助の伝承者養鶏研修制度があり、担い手数は更に広いものと考えられる。

伝統組踊保存会・保持者（総合認定）

種別	認定保持者数
立方	17人
歌三線	32人
箏曲	15人
笛	4人
胡弓	4人
太鼓	3人
合計	75人

※一般社団法人伝統組踊保存会ホームページより整理

■琉球舞踊など

無形文化財の保持団体として、組踊以外では、国指定重要無形文化財「琉球舞踊」の保持者から構成される「琉球舞踊保存会」のほか8つの保存会があり、これらはすべて文化財保持者として認定を受けた個人によって構成される。

琉球舞踊などに関して統一的な組織はないが、沖縄芸能協会と沖縄芸能連盟の2つの組織があり、流派・会派の多くはどちらかの会に所属している。琉球舞踊の伝承は、流派や会派ごとの組織の下部に位置する各道場を中心に行われており、道場は日本全国に分布する。三線などの楽器演奏についても全体の統一組織はなく、流派や会派ごとに組織化され、その下部に位置付けられた各道場を中心に伝承されている。

琉球舞踊・三線については、公民館等の講座となっているところもあり、入り口の門戸は広いと思われる。

② 沖縄空手

■ 県指定無形文化財保持者

県指定無形文化財「沖縄の空手・古武術」の保持団体として「沖縄の空手・古武術保存会」があり。これまで合計 14 人（うち物故者 10 人）が保持者として認定されている。

県指定無形文化財(空手・古武術)

No.	名 称	指定年月日	代 表 者	保 存 団 体
1	おきなわからてこぶしりつ 沖縄の空手・古武術	平 9.8.8	上原 武信	沖縄の空手・古武術保存会

※「文化財課要覧（令和元年度版）」（沖縄県教育庁文化財課、令和元年 11 月）より

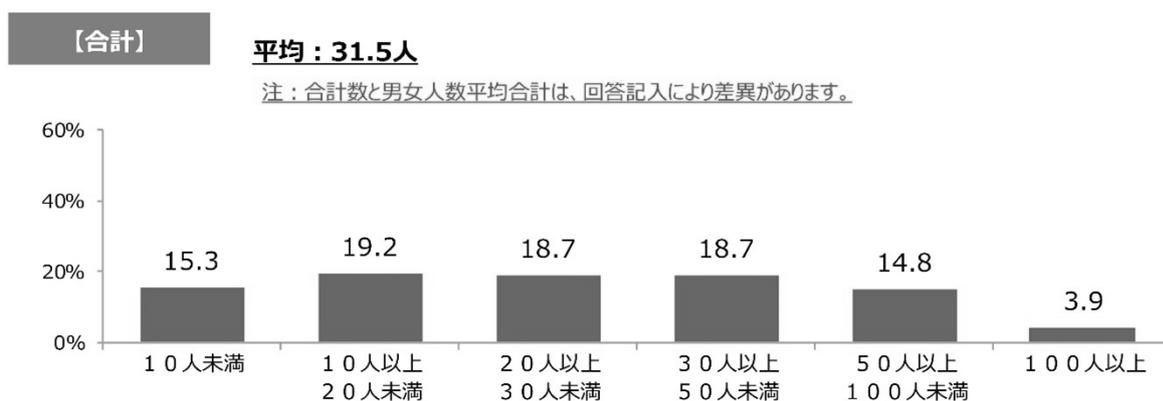
■ 空手全般

沖縄空手については、統一的な組織として「沖縄伝統空手道振興会」がある。その下に全沖縄空手道連盟、沖縄県空手道連盟、沖縄空手・古武道連盟、沖縄県空手道連合会の 4 つの全県的組織が位置付けられ、それぞれに各道場が所属している。4 組織に加盟していない流派・会派も多い。

沖縄県が平成 28（2016）年に実施した「沖縄伝統空手・古武道実態調査」では、県内には現在活動中と考えられる道場が 386 あり、門下生の人数は平均 31.5 人となっている。単純計算で、県内には 12,000 人近くの担い手がいることが伺える。また、空手道マガジン月刊 JKFan 編集部調べによれば、平成 27（2015）年時点の空手の競技人口は日本全国で 53 万人、沖縄県内におよそ 2,000 人がいるとされる。

この他にも、県内学校の授業や部活動となっているところもあり、入り口の門戸は広いと思われる。

空手・古武道の道場の門下生人数



※「沖縄伝統空手・古武道実態調査業務報告書」（沖縄県文化観光スポーツ部空手振興課、平成 29 年 3 月）より

③伝統工芸

■無形文化財保持者

国の重要無形文化財（工芸技術）として6種、県指定無形文化財（工芸技術）として5種が指定を受けている。これまで無形文化財保持者として認定を受けた人数は、重要無形文化財5人と3団体の合計121人（うち物故・脱退者64人）、県指定無形文化財5団体合計40人（うち物故・解除者18人）である。

国指定重要無形文化財(工芸技術)

No.	名 称	指定年月日	保持者(代表者)	保持団体	備 考
				(指 定 経 緯)	
1	喜如嘉の芭蕉布	昭49.4.20	(平良 敏子)	喜如嘉の芭蕉布保存会	
2	宮古上布	昭53.4.26 (昭52.5.9 県指定)	(新里 玲子)	宮古上布保持団体	
3	琉球陶器	昭60.4.13 (昭47.12.28 県指定)	金城 次郎		H16.12.24物故により指定解除
4	紅型	平 8.5.10	玉那覇 有公		
5	首里の織物	平10.6.8 (昭49.1.17 県指定)	宮平 初子		
6	読谷山花織	平11.6.21 (昭50.4.10 県指定)	與那嶺 貞		H15.1.30物故により指定解除
7	芭蕉布	平12.6.6 (昭47.11.21 県指定)	平良 敏子		
8	久米島紬	平16.9.2 (昭52.10.6 県指定)	(山城 宗太郎)	久米島紬保持団体	

※「文化財課要覧（令和元年度版）」（沖縄県教育庁文化財課、令和元年11月）より

県指定重要無形文化財(工芸技術)

No.	名 称	指定年月日	保 持 者
1	びん型	昭48.7.30	城間 榮順 玉那覇 道子 金城 昌太郎 知念 績元 喜友名 盛蔵 西平 幸子
2	本場首里の織物	昭49.1.17	祝嶺 恭子 多和田 淑子
3	読谷山花織	昭50.4.10	比嘉 恵美子 島袋 秀 池原ケイ子
4	八重山上布	昭53.4.1	新垣 幸子 中村 澄子 平良 蓉子 糸数 江美子 松竹 喜生子
5	琉球漆器	平 3.1.16	前田 孝允 金城 唯喜

※「文化財課要覧（令和元年度版）」（沖縄県教育庁文化財課、令和元年11月）より

■国選定保存技術

国選定保存技術として、琉球藍製造1人（物故により解除）及び1団体合計18人、苧麻糸手績み1団体75人、手機製作1人が指定されている。

■産業従事者数

沖縄県の令和元（2019）年度の調査によれば、伝統工芸産業の従事者数の平成26（2014）から平成30（2018）年の5年間の推移は次の表のとおりである。織物は産地によって増減の違いがあ

るが、総数としては減少傾向である。びんがたは減少傾向、琉球ガラス、漆器は横ばい、陶器、三線は増加傾向である。

工芸産業従事者数の推移

品名		H26	H27	H28	H29	H30	
伝統 工芸 製品	織物	芭蕉布	34	36	29	27	27
		読谷山織・ミンサー	69	74	72	72	73
		首里織	69	57	53	63	66
		琉球緋	151	164	162	171	168
		久米島紬	101	104	97	99	94
		宮古上布	43	40	42	46	43
		八重山上布・ミンサー	215	164	209	209	182
		竹富織物	11	14	16	17	20
		与那国織	32	38	30	27	29
		知花花織	48	47	51	58	59
		小計	773	738	761	789	761
	びんがた	102	85	109	108	91	
	漆器	42	35	51	42	41	
	陶器	393	375	408	385	409	
	琉球ガラス	306	297	283	265	295	
三線	40	37	49	39	44		
合計	1,656	1,567	1,661	1,628	1,641		

※「令和元年度工芸産業実態調査」（沖縄県商工労働部ものづくり振興課、令和2年2月）より。
その他（ウージ染、小木工）を除く。

④伝統行事・民俗芸能など

■無形民俗文化財

国の重要無形民俗文化財として指定されている伝統行事や民俗芸能は9件、県指定無形民俗文化財は6件である。

国指定重要無形民俗文化財

No.	名 称	指定年月日	所 在 地	保持団体
1	多良間の豊年祭	昭51. 5. 4	多良間村	多良間村民俗芸能保存会
2	竹富島の種子取	昭52. 5.17	竹富町字竹富	竹富島民俗芸能保存会
3	安田のシヌグ	昭53. 5.22	国頭村字安田	安田古文化財保存会
No.	名 称	指定年月日	所 在 地	保持団体
4	与那国島の祭事の芸能	昭60. 1.12	与那国町	与那国民俗芸能保存会 東地区芸能保存会 西地区芸能保存会 島仲地区芸能保存会 比川地区芸能保存会 久部良地区芸能保存会
5	西表島の節祭	平 3. 2.21	竹富町字西表祖納、星立	西表民俗芸能保存会
6	宮古島のパーントゥ	平 5.12.13	宮古島市平良字島尻 宮古島市上野字野原	宮古島市島尻自治会 宮古島市上野字野原部落会
7	塩屋湾のウングミ	平 9.12.15	大宜味村字田港、屋古、塩屋、白浜	田港区、屋古区、塩屋区、白浜区
8	伊江島の村踊	平10.12.16	伊江村	伊江村民俗芸能保存会
9	小浜島の盆、結願祭、 種子取祭の芸能	平19. 3. 7	竹富町小浜	小浜民俗芸能保存会

※「文化財課要覧（令和元年度版）」（沖縄県教育庁文化財課、令和元年11月）より

県指定無形民俗文化財

No.	名 称	指定年月日	所在の場所	保持団体
1	泡瀬の京太郎	昭55.3.31	沖縄市泡瀬	泡瀬京太郎保存会
2	宜野座の京太郎	昭60.10.8	宜野座村字宜野座	宜野座区二才団
3	伊集の打花鼓	〃	中城村字伊集	中城村字伊集打花鼓保存会
4	屋部の八月踊り	昭63.1.12	名護市字屋部	屋部踊り団
5	湧川の路次楽	平14.1.18	今帰仁村湧川	湧川路次楽保存会
6	謝名のアヤーチ(操り)獅子	平14.1.18	今帰仁村謝名	謝名アヤーチ獅子保存会

※「文化財課要覧（令和元年度版）」（沖縄県教育庁文化財課、令和元年11月）より

■市町村における伝統行事・民俗芸能など

市町村指定の無形民俗文化財は、総数 187 件である。この他、各地域には指定されていない伝統行事や民俗芸能が多数伝承されているものと考えられる。

市町村指定無形民俗文化財

(令和元年5月1日現在)

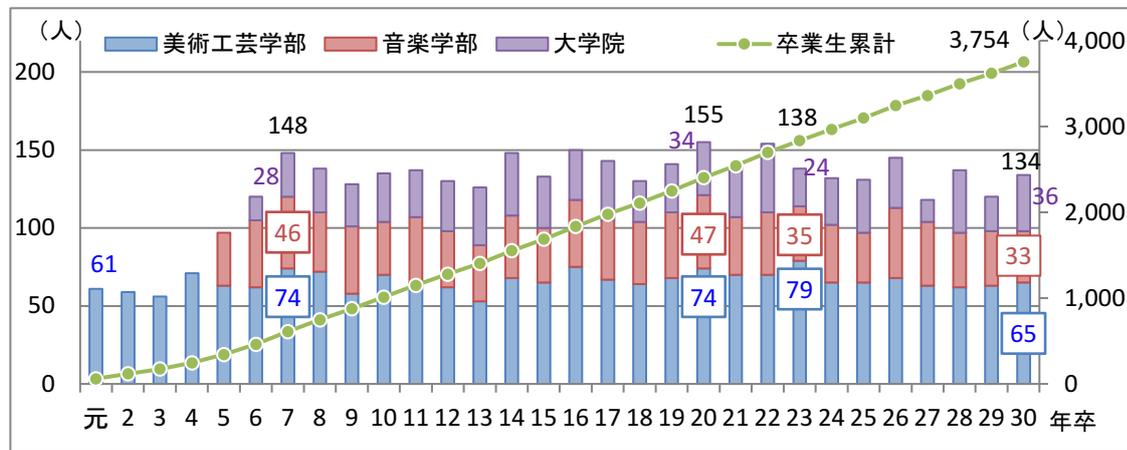
No.	種別 市町村名	合計	有形文化財											無形文化財				民俗文化財		記念物							登録文化財件数		
			有形文化財											無形文化財				民俗文化財		記念物									
			建造物	彫刻	絵画	工芸品	書跡・典籍	古文書	考古資料	歴史資料	計	芸能	工芸技術	口承文芸	その他	有形	無形	計	史跡	名勝	天然記念物	動植物	記念物	地質	天然保護区域	選定保存技術			
合計		981	221	33	7	6	65	16	50	1	43	7	3	2	1	1	303	116	187	150	306	20	124	5	100	17	2	0	2
1	国頭村	2	1	1																1			1	1					
2	大宜味村	2																		2	1		1	1					
3	東村	2																		2			2	2					
4	今帰仁村	15	12	4			3		3		2						2	2		1			1	1					
5	本部町	15	3					1	1		1						10	3	7	2	1		1				1		
6	名護市	52	15	2	1	1	9	1	1			1			1		9	6	3	27	9	1	17	1	16				
7	恩納村	10	5					2									4	4		1	1								
8	宜野座村	7	3						1		2						3	1	2	1	1								
9	金武町	14	1	1													4	3	1	9	7		2	2					
10	伊江村	10															4	4		6	4	1	1	1					
11	うるま市	42	7	4			3									19	10	9	16	14	1	1	1	1					
12	沖繩市	24	5	1			1				3						9	7	2	10	9		1	1					
13	読谷村	10	2								2						3	3		5	5								
14	嘉手納町	13	1				1										6		6	6	4		2	2					
15	北谷町	4	1	1													2	2		1	1								
16	北中城村	14															9	5	4	5	5								
17	中城村	9	1	1													3	2	1	5	4		1	1					
18	西原町	7	3						2		1								4	3		1	1						
19	宜野湾市	20	4		2				1		1						5	2	3	11	8	1	2	1	1				
20	浦添市	61	44			5	39										5		5	12	9		3	3					
21	那覇市	49	4	1			1		2			1		1			13	3	10	31	28	2	1	1					
22	豊見城市	4	4	1					2		1																		
23	糸満市	9	3	1	2												5	2	3	1	1								
24	八重瀬町	12															7		7	5	3		2	2					
25	南城市	58	5	3					1		1	3	3				26	14	12	24	16		8	6	2				
26	与那原町	7																	7	6		1	1						
27	南風原町	26	3								3	1		1			17	4	13	5	3		2	2					
28	久米島町	45	5	1							4						1	1		39	19	5	15	12	3				
29	渡嘉敷村	6	1	1															5	3		1	1	1					
30	座間味村	4	2	2															2	1		1	1						
31	粟国村	6										1			1				5	1		2	2	2					
32	渡名喜村	2																	2	1		1	1						
33	南大東村	2																	2			2					2		
34	北大東村	1																	1			1	1						
35	伊平屋村	4																	4	3		1							
36	伊是名村	31	12		2		4		6								2	1	1	17	16		1	1					
37	宮古島市	119	13	5			4	2		2							28	13	15	78	54	3	21	1	15	5			
38	多良間村	70	19				8			11							12	11	1	39	33		6	6					
39	石垣市	72	39	3			1		28	1	6						12	10	2	21	13		8	1	4	3			
40	竹富町	112	3				3										80	1	79	29	18	2	9	8	1				
41	与那国町	9															3	2	1	6	1		5	1	2	2			

※「文化財課要覧（令和元年度版）」（沖縄県教育庁文化財課、令和元年 11 月）より

⑤ 県立芸術大学の卒業生

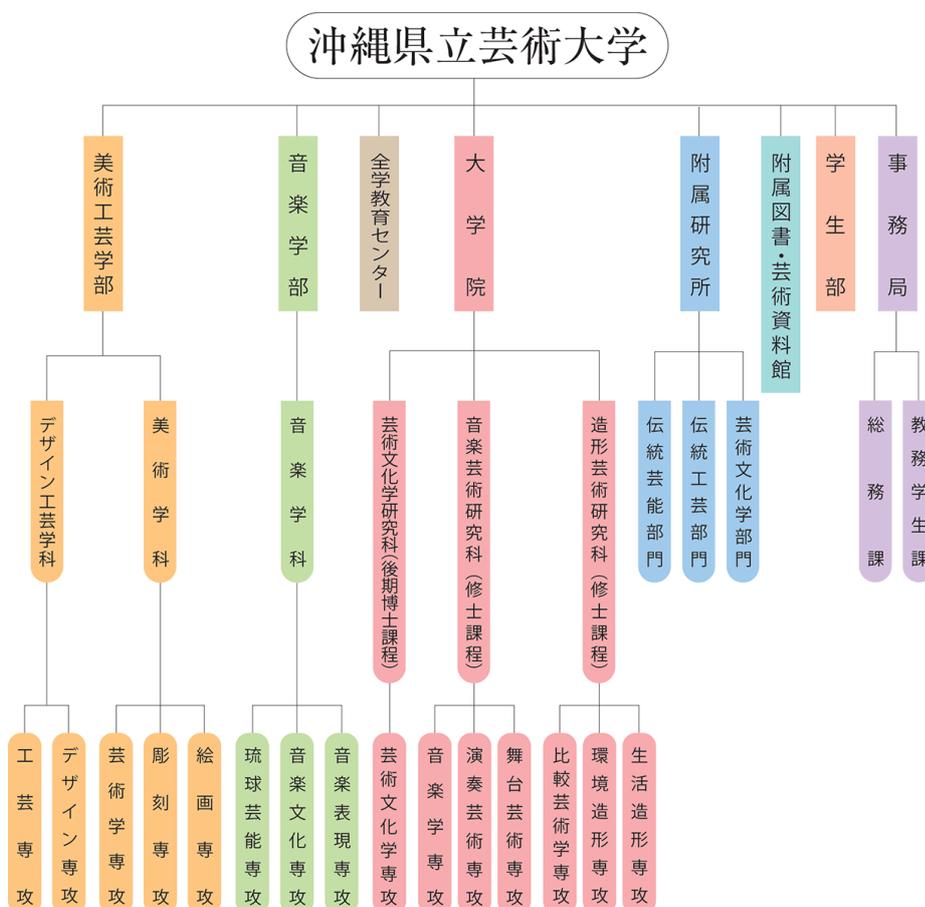
沖縄県立芸術大学の卒業生数は、下図のとおりである。これまで、大学院まで含めて延べ3,754人が卒業している。

県立芸術大学卒業生数の推移



※「沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」（沖縄県、令和2年3月）より

【参考】

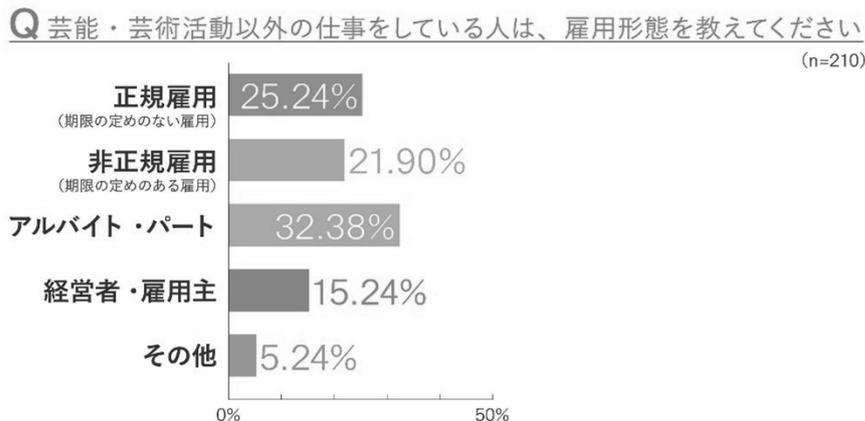
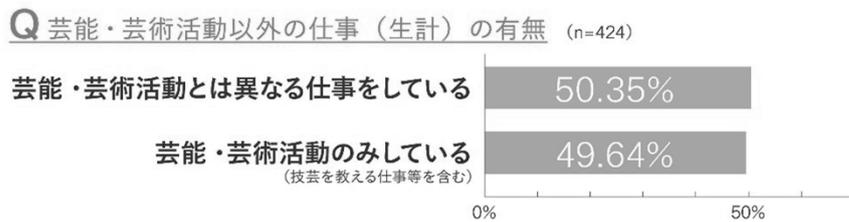


3)生計と文化活動の関係

①伝統芸能

一般社団法人沖縄県芸能関連協議会が令和2（2020）年3月～4月に実施した「新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた公演・イベント等の自粛・中止による沖縄文化・芸能活動への影響に関する調査」では、沖縄県内に居住または沖縄県内で主に活動する芸能・舞台芸術関係者個人に対してWebアンケート調査を実施している。その結果によれば、関係者の半数が芸能・芸術活動とは異なる仕事をしており、そのうち非正規・アルバイト・パートが約5割を占める。また、分野別にみると、伝統芸能実演家の約7割が「芸能・芸術とは異なる仕事（生計）をしている」（兼業）と回答している。

芸能・芸術活動以外の仕事について



分野・業種別にみた専業と兼業の傾向

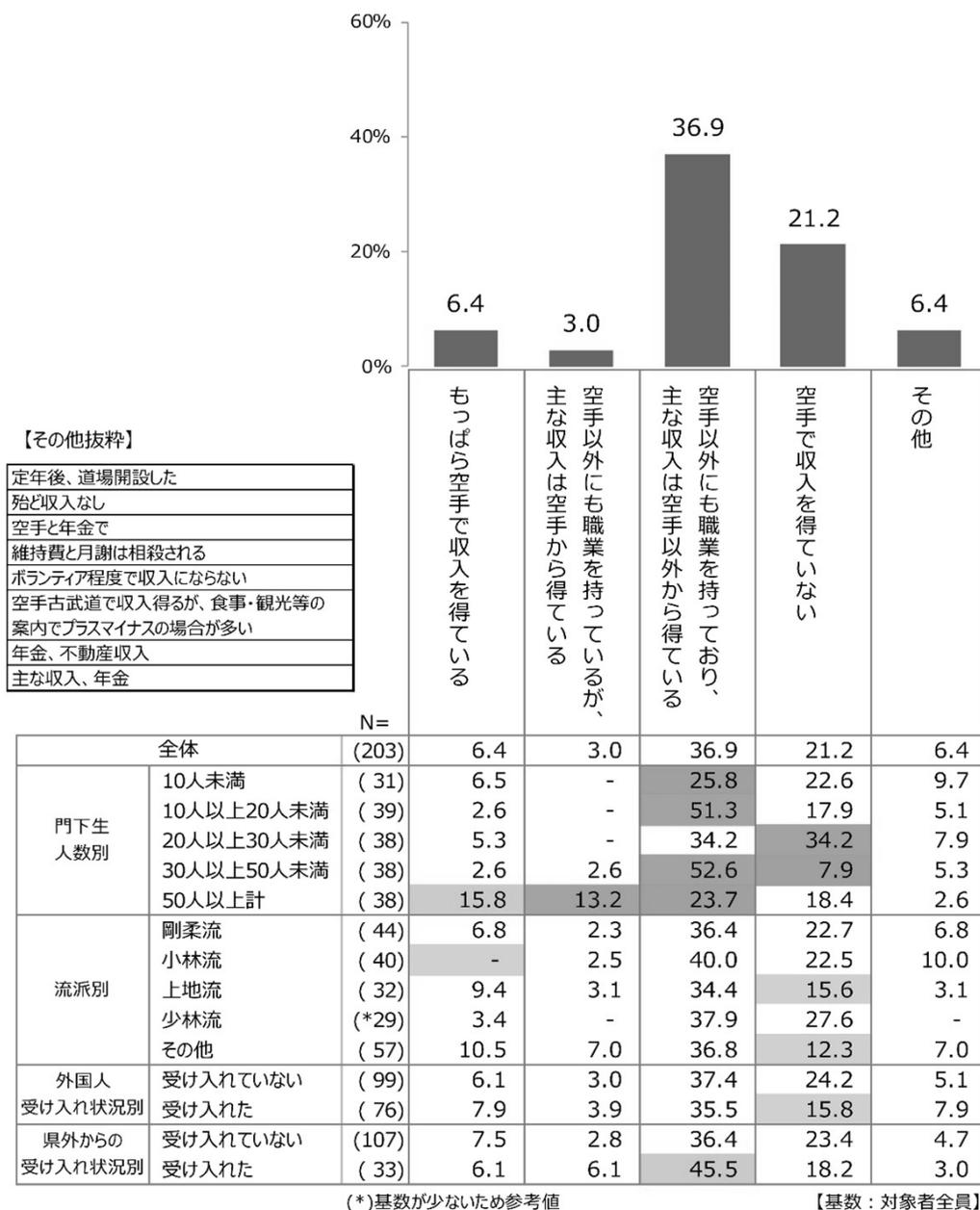
分野	専業	兼業	合計(%)
伝統芸能実演家	30.5%	69.5%	100.0%
ポピュラー音楽演奏家	40.2%	59.8%	100.0%
クラシック音楽演奏家	78.3%	21.7%	100.0%
演劇役者・ダンサー	58.1%	41.9%	100.0%
その他実演家等	45.8%	54.2%	100.0%
テクニカル	75.0%	25.0%	100.0%
制作者	58.5%	41.5%	100.0%
総計	49.6%	50.4%	100.0%

※「新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた公演・イベント等の自粛・中止による沖縄文化・芸能活動への影響に関する調査報告書」（一般社団法人沖縄県芸能関連協議会、令和2年5月）より

② 沖縄空手

沖縄県が平成 28 (2016) 年に実施した「沖縄伝統空手・古武道実態調査」では、県内の空手道場主にアンケート調査を実施している。その結果によれば、主な収入源が「空手」なのは全体の 1 割未満で、「空手以外にも職業を持っており、主な収入は空手以外から得ている」がおおよそ 4 割と最も多い結果となった。「空手で収入を得ていない」も 2 割程度みられる。

空手と収入の関係



※「全体」に比べて ■ + 10 pt以上 ■ + 5 pt以上 ■ - 10 pt以下 ■ - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

※「沖縄伝統空手・古武道実態調査業務報告書」(沖縄県文化観光スポーツ部空手振興課、平成 29 年 3 月) より

③伝統工芸

沖縄県が令和元（2019）年度に実施した実態調査による伝統工芸製品の生産額は下表のとおりである。また、実態調査をもとに、伝統工芸製品の生産額を工芸産業従事者数で割って一人あたり生産額を算出すると、次ページの表のとおりとなる。

びんがた・漆器・陶器・琉球ガラス・三線などは、平均して年間 239 万円程度である（平成 30 年度）。織物は産地によって差が大きく、最も多い八重山上布・ミンサーで年間 377 万円、最も少ない知花花織で年間 31 万円となる（平成 30 年度）。生産額及び従事者数をもとに単純計算した数値であるため一概には言えないが、織物などでは専業で生計を立てることは難しいと考えられる。

伝統工芸製品の生産額の推移(単位:千円)

品名		H26	H27	H28	H29	H30	
伝統 工芸 製品	織物	芭蕉布	81,706	87,165	60,447	70,651	60,140
		読谷山織・ミンサー	36,119	36,305	26,814	26,390	25,589
		首里織	44,118	37,703	38,521	38,763	39,876
		琉球緋	152,532	146,065	152,016	165,370	171,989
		久米島紬	83,000	74,300	73,147	74,831	66,124
		宮古上布	48,993	26,227	24,400	52,686	50,156
		八重山上布・ミンサー	721,087	733,010	720,551	757,380	687,385
		竹富織物	5,254	6,545	6,126	6,069	7,071
		与那国織	29,004	29,427	24,777	19,209	21,532
		知花花織	11,778	13,379	26,643	20,384	18,597
		小計	1,213,591	1,190,126	1,153,442	1,231,733	1,148,459
	びんがた	271,738	226,318	245,807	268,396	245,984	
	漆器	115,500	101,700	107,300	74,718	80,983	
	陶器	1,072,686	1,040,480	1,104,059	1,072,191	1,139,234	
	琉球ガラス	990,764	824,214	793,567	783,828	702,543	
三線	70,282	76,721	107,040	90,070	93,661		
合計	3,734,561	3,459,559	3,511,215	3,520,936	3,410,864		

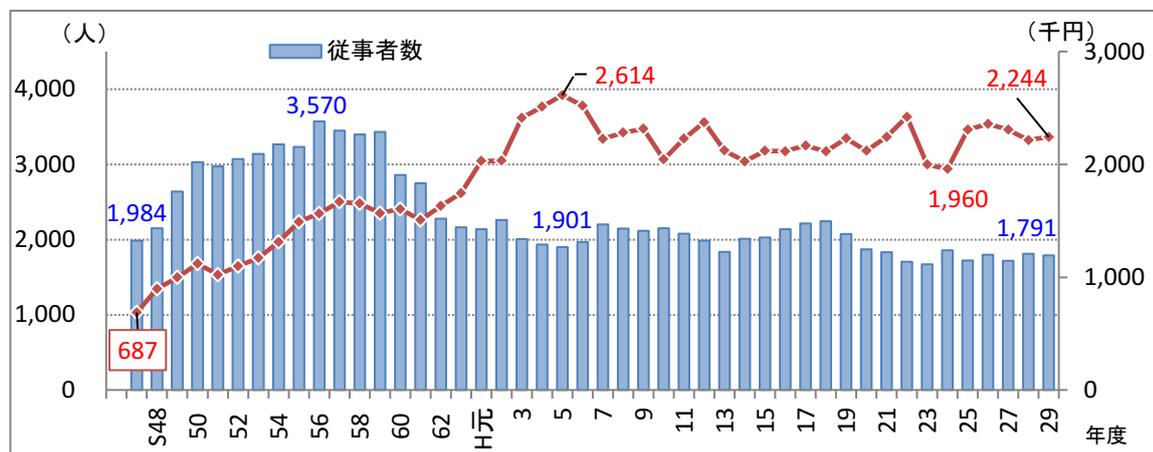
※「令和元年度工芸産業実態調査」（沖縄県商工労働部ものづくり振興課、令和2年2月）より整理。
その他（ウージ染、小木工）を除く。

一人あたり生産額の推移(単位:千円)

品名		H26	H27	H28	H29	H30
伝統工芸製品	芭蕉布	2,403	2,421	2,084	2,617	2,227
	読谷山織・ミンサー	523	491	372	367	351
	首里織	639	661	727	615	604
	琉球絣	1,010	891	938	967	1,024
	久米島紬	822	714	754	756	703
	宮古上布	1,139	656	581	1,145	1,166
	八重山上布・ミンサー	3,354	4,470	3,448	3,624	3,777
	竹富織物	478	468	383	357	354
	与那国織	906	774	826	711	742
	知花花織	245	285	522	351	315
	小計	1,570	1,613	1,516	1,561	1,509
	びんがた	2,664	2,663	2,255	2,485	2,703
	漆器	2,750	2,906	2,104	1,779	1,975
	陶器	2,729	2,775	2,706	2,785	2,785
琉球ガラス	3,238	2,775	2,804	2,958	2,382	
三線	1,757	2,074	2,184	2,309	2,129	
合計	2,255	2,208	2,114	2,163	2,079	

※「令和元年度工芸産業実態調査」(沖縄県商工労働部ものづくり振興課、令和2年2月)より整理(生産額÷工芸産業従事者数で算出)。その他(ウージ染、小木工)を除く。

(参考)昭和47年からの工芸産業の従事者数及び一人当たりの生産額の推移



※「沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)等総点検報告書」(沖縄県、令和2年3月)より

4)各種意向調査

①県民の文化振興に関する意識

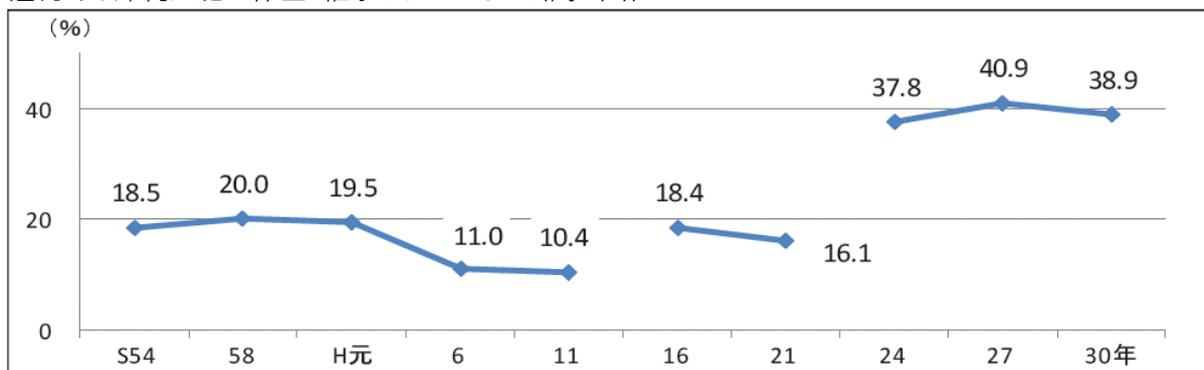
沖縄県では、県民の意識の変化や価値観、行政への要望などを把握するため、昭和 54 (1979) 年から定期的に「暮らしについてのアンケート調査」を実施している。そのなかで文化振興に関する県民の意識が伺える箇所を整理すると、次のとおりである。

■県民意識調査における県民満足度の推移

沖縄文化の保全・継承等に関する県民満足度は、昭和 54 (1979) 年の 18.5%から平成 30 (2018) 年には 38.9%と 20.4 ポイント向上している。

県民意識調査の文化芸術に関する県民満足度は、平成 6 (1994) 年の 19.6%から平成 30 年には 32.5%と 12.9 ポイント向上している。

魅力ある沖縄文化が保全・継承されていること(問4(6))



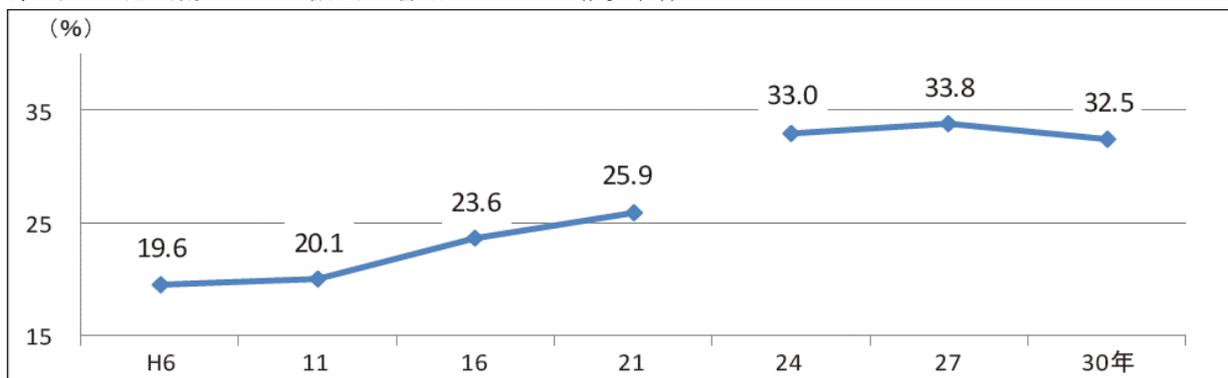
注 1：県民満足度は、「今のくらい満たされていますか」との質問に対して、「非常に満たされている」「ある程度満たされている」と回答した割合の合計。

注 2：質問項目の () 内は、質問番号と 75 の質問項目の整理番号。

注 3：H16、H21 の質問事項は、「びん型、やき物、琉舞、三味線などの伝統工芸や文化が盛んになること」。

注 4：S54～H11 の質問事項は、「びん型、おり物、やき物などの伝統郷芸がさかんになること」。

県民が文化芸術にふれる機会が増加していること(問4(7))



注 1：県民満足度は、「今のくらい満たされていますか」との質問に対して、「非常に満たされている」「ある程度満たされている」と回答した割合の合計。

注 2：質問項目の () 内は、質問番号と 75 の質問項目の整理番号。

注 3：H6～H21 の質問事項は、「図書館や美術館などの文化施設が近くにあること」

※「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」（沖縄県、令和 2 年 3 月）より

■沖繩に誇りを感じているか

沖繩に誇りを感じるかについては、「どちらかと言えば誇りを感じている」(55.3%)の割合が最も高く、次いで「誇りを強く感じている」(27.7%)、「どちらかと言えば誇りを感じていない」(11.7%)、「誇りを感じていない」(4.6%)となっている。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はないが、「どちらかと言えば誇りを感じていない」の割合がやや上昇している。

地域別にみると、「誇りを強く感じている」の割合は南部(33.2%)が最も高く、「どちらかと言えば誇りを感じている」の割合は「北部」(64.8%)が最も高い。「誇りを感じていない」の割合は「宮古」(9.1%)で高い。

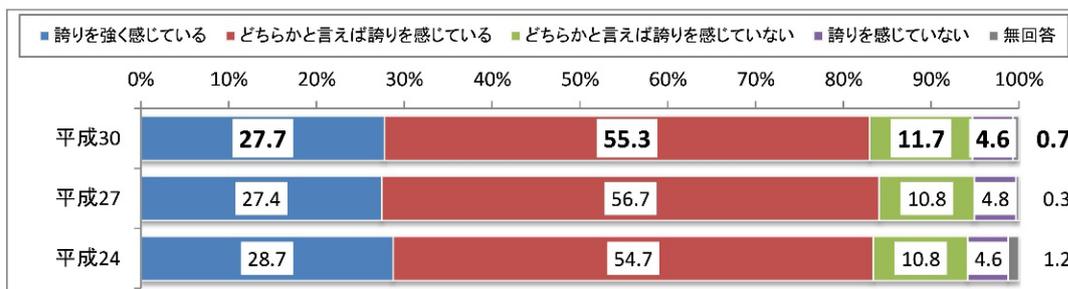
年代別にみると、10代の「誇りを強く感じている」の割合は40.9%と最も高い。30代の「誇りを感じていない」(7.1%)、「どちらかと言えば誇りを感じていない」(14.1%)で2割以上が誇りを感じていない。70代以上の「どちらかと言えば誇りを感じている」の割合は63.9%と最も高い。

性別でみると、女性の「誇りを強く感じている」(28.4%)「どちらかと言えば誇りを感じている」(59.2%)の9割弱が誇りを感じており男性よりも高くなっている。

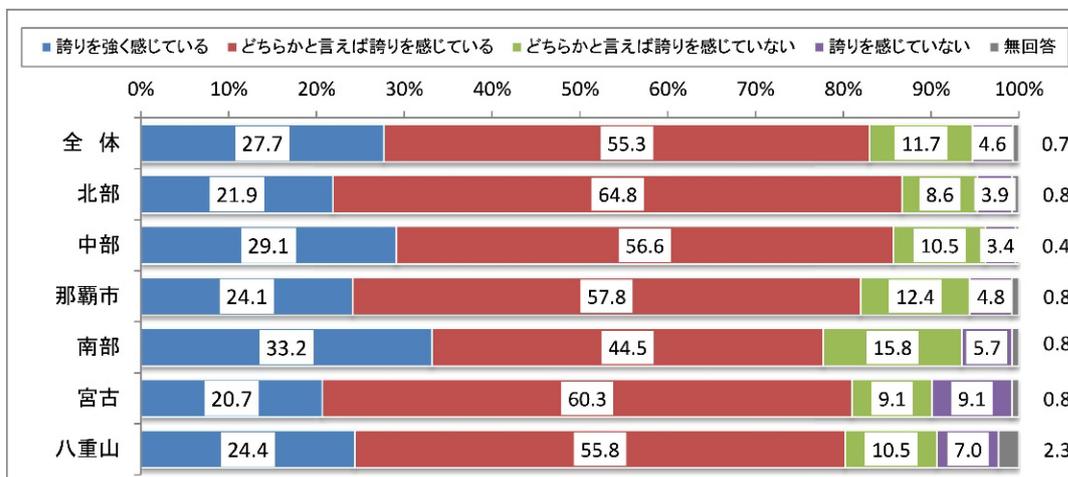
世帯年収別にみると、年収100万円未満と100万円以上200万円未満の誇りを感じていない割合は2割程で他の世帯年収より高い。一方、800万円以上は「誇りを強く感じている」の割合は34.8%で最も高くなっている。

「沖繩に誇りを感じるか」のクロス集計

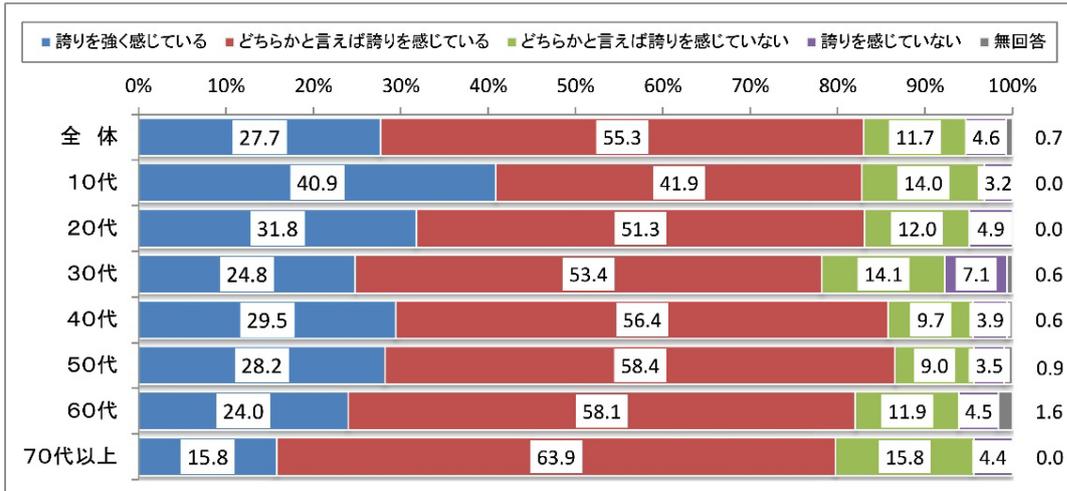
図表Ⅱ-1-66 沖繩に誇りを感じるか [時系列比較]



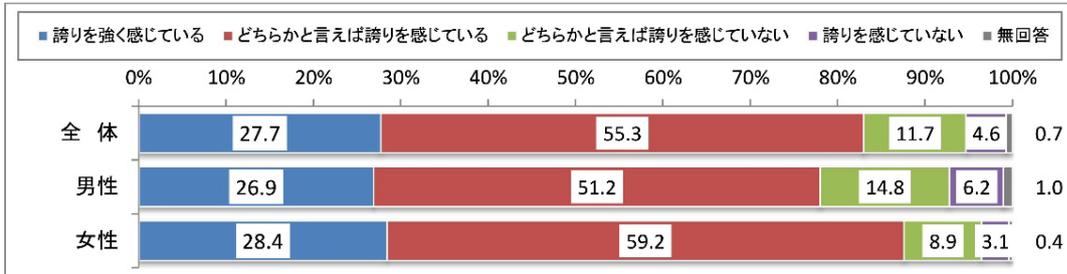
図表Ⅱ-1-67 沖繩に誇りを感じるか [地域別]



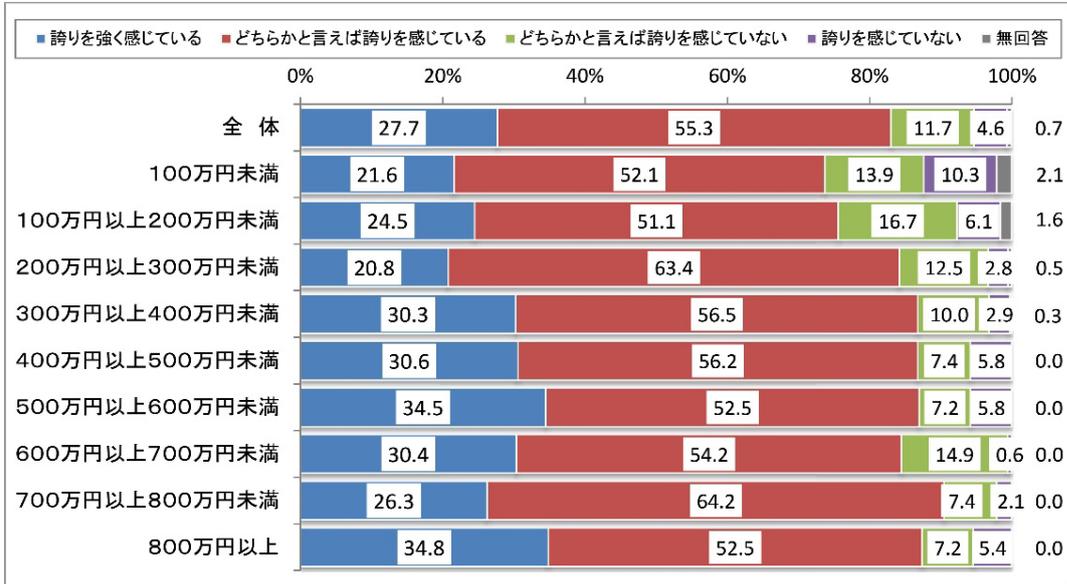
図表Ⅱ-1-68 沖縄に誇りを感じるか〔年代別〕



図表Ⅱ-1-69 沖縄に誇りを感じるか〔性別〕



図表Ⅱ-1-70 沖縄に誇りを感じるか〔世帯年収別〕



※「第10回県民意識調査報告書」（沖縄県企画部、平成31年3月）より

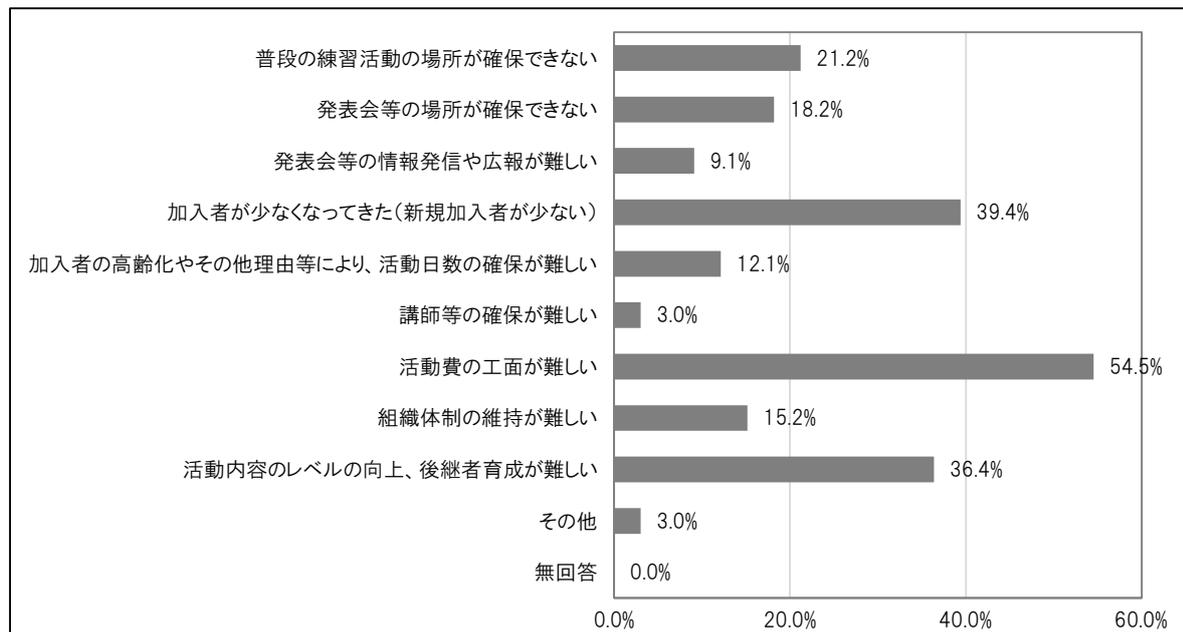
②文化芸術団体の文化振興に関する意識

沖縄県が平成 28（2016）年に実施した「沖縄文化プログラム調査事業」では、文化芸術団体に対してアンケート調査を実施している。その結果を整理すると次のとおりである。

【まとめ】

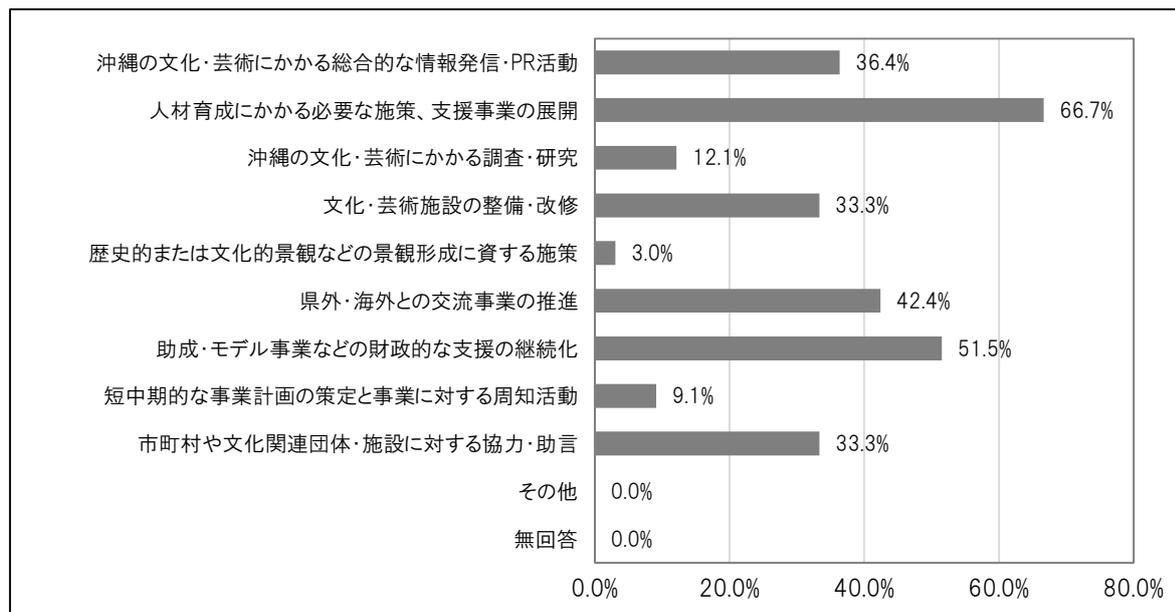
- 文化プログラム調査事業における文化芸術団体アンケートの回答者の活動分野は、半数が「芸術（文学、音楽、美術、演劇、舞踊、メディア芸術など）」、4割が「伝統芸能（組踊、三線音楽、琉球舞踊など）」、その他「伝統的な行事（まつり・イベント、エイサー、ハーリー、綱引きなど）」である。
- 日頃の活動で特に困っていることは、活動費の工面、加入者の減少、活動内容のレベル向上・後継者育成である。
- 次世代へ引き継ぐために必要な取り組みとしては、「人材育成にかかる必要な施策、支援事業の展開」、「助成・モデル事業などの財政的な支援の継続化」、「県外・海外との交流事業の推進」などである。その他、「沖縄の文化・芸術にかかる総合的な情報発信・PR活動」や「文化芸術施設の整備・改修」、「市町村や文化関連団体・施設に対する協力・助言」なども3割を超えている。
- 人材育成に必要な取り組みとしては、「文化・芸術に携わる人材の職の確保や経済的安定」が最も高い。その他、「子供による鑑賞・体験機会の提供」、「文化・芸術活動の企画を行う者や施設運営を行う者の育成」となった。

活動する際に困難さを感じること

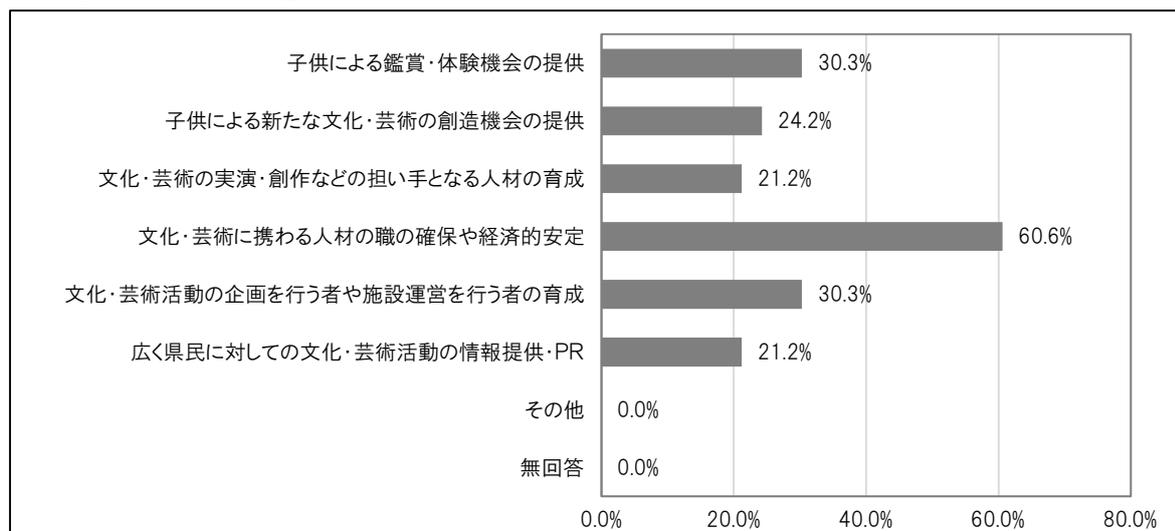


※「平成 28 年度沖縄文化プログラム調査事業委託業務 報告書」（沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課、平成 29 年 3 月）より

沖縄の文化芸術を次世代に継承するために必要な取り組み



人材育成に必要な取り組み



※「平成 28 年度沖縄文化プログラム調査事業委託業務 報告書」（沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課、平成 29 年 3 月）より

③市町村の文化振興に関する意識

沖縄県が平成 28（2016）年に実施した「沖縄文化プログラム調査事業」では、市町村に対してアンケート調査を実施している。その結果を整理すると次のとおりである。

【まとめ】

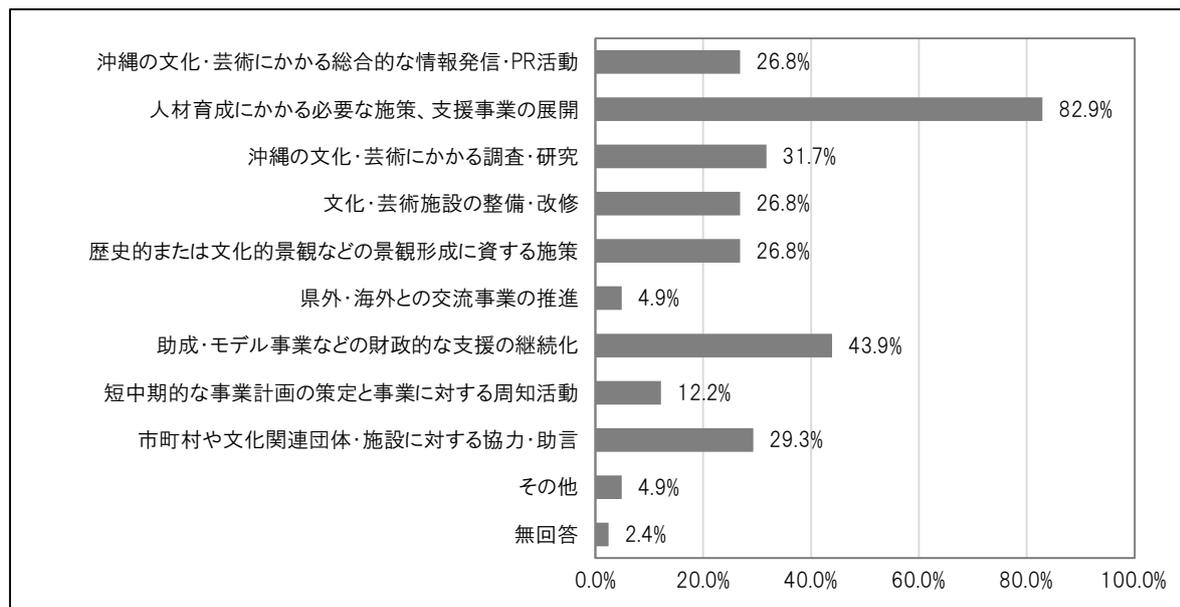
- 各自治体が自慢したい・PR したいと感じている文化・芸術のジャンルとして、最も多かった項目は「伝統的な行事（まつり、イベント、エイサー、ハーリー、綱引きなど）」である。次いで「文化財」、「伝統芸能（組踊、三線音楽、琉球舞踊など）」となっている。
- 次世代へ引き継ぐために必要な取り組みとしては、「人材育成にかかる必要な施策、支援事業の展開」が8割を占める。「助成・モデル事業などの財政的な支援の継続化」、「沖縄の文化・芸術にかかる調査・研究」もそれぞれ3割を超える回答となっている。

自慢したい、PR したい文化・芸術の有無

項目		ある	割合
1	しまくとぅば	15	8.0%
2	伝統芸能(組踊、三線音楽、琉球舞踊など)	32	17.1%
3	空手道・古武道	5	2.7%
4	伝統工芸(紅型、織物、陶器、漆器など)	17	9.1%
5	伝統的な行事(まつり・イベント、エイサー、ハーリー、綱引きなど)	36	19.3%
6	食文化(琉球料理など)	9	4.8%
7	芸術(文学、音楽、美術、演劇、舞踊、メディア芸術など)	14	7.5%
8	生活文化(茶道、華道、書道、闘牛・沖縄角力など娯楽、その他生活に係る文化習慣)	7	3.7%
9	文化財	35	18.7%
10	歴史的文化的景観	13	7.0%
11	その他	4	2.1%
n	無回答	0	0.0%
合計		187	100.0%

※「平成 28 年度沖縄文化プログラム調査事業委託業務 報告書」（沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課、平成 29 年 3 月）より

沖縄の文化芸術を次世代に継承するために必要な取り組み



※「平成 28 年度沖縄文化プログラム調査事業委託業務 報告書」（沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課、平成 29 年 3 月）より

5) 県外・海外に所在する沖縄関連文化財の動向

① 在外沖縄関連文化財の背景

■ 外交関係に伴う文物の移動

琉球王国は、中国や日本をはじめ、東アジアの国々との外交や貿易の過程において、文化や文物の交流も行われていた。特に、琉球国王は中国皇帝に対して進貢（朝貢）を行う関係であり、定期・不定期に琉球特産の美術工芸品を贈っていた。また、徳川幕府に対しては1609年以降に、「江戸上り」の使節団が派遣され、使節とともに多くの美術工芸品が徳川幕府をはじめ、江戸までの沿道の大名にも贈られたことが記録で確認される。

■ 流出文化財の経緯

首里城、国王の生活の場であるとともに琉球王国の様々な儀式が行われていた。冊封に伴い中国皇帝から下賜された宝物や王国の最高技術で制作された漆器や染織品、金工品などが城内に蓄えられていたと想定されるが、現存する尚王家の伝来品は僅少である。

首里城から持ち出された文化財は、次のような歴史的事件に起因する。

【薩摩侵攻による戦利品】

1609年、首里城に攻め入った薩摩軍は、首里城内の宝物を戦利品として持ち帰ったことが「琉球渡海日日記」に記されている。島津氏は尚寧王を捕虜にし、駿府の徳川家康や将軍秀忠に謁見させ、琉球を制服した証とする。その際、首里城の戦利品として家康に献上された品で、尾張徳川家に形見分けされた漆器が徳川美術館に所蔵される。

【廃藩置県による接收】

1879年の廃藩置県により、琉球王国は崩壊し沖縄県となり、首里城は明治政府が接收した。最後の国王尚泰は華族（侯爵）に列せられ、東京にその居を移された。親族らは世子殿の中城御殿（旧沖縄県立博物館跡地）での生活を余儀なくされた。王府の文書類は明治政府により押収され、明治政府、尚家、沖縄県庁、沖縄県立図書館へと四組織に分割され王国旧来の様相を失った。また、王国を象徴する王装束や諸儀式用の御道具類、紅型や織物などの衣装類も東京と中城御殿に分散された。

戦前に尚家の東京邸に移された品々は、幸い、沖縄戦の戦禍を免れた。1995～96年、那覇市は尚裕氏より尚家伝来の文書及び美術工芸品の寄贈を受けている（国宝琉球国王尚家関係資料）。

【沖縄戦の戦禍】

沖縄戦では、多くの人命とともに王国が築きあげた文化遺産も消失した。中城御殿では嚴重な金庫や壕に避難させた王国の遺産の殆どが灰燼に帰したり、盗難にあったとされる。戦後、米軍により持ち去られていた「おもろさうし」や間得大君雲龍黄金簪は、1953年にペリー来航百周年記念として米国から返還された文化財である。

（『開館記念特別展「美のシリーズ」第3弾 うるまちゅら島琉球』（九州国立博物館 平成18年）の第1部第1章を整理）

②在外沖繩関連文化財調査

■調査概要

沖縄県教育庁文化財課では、海外に所在する文化財調査を以下のとおり実施した。担当課では現在は主に中国を対象に海外での琉球人の活動を把握する目的の調査を行っており、今後得られた成果を普及等へ役立てる予定である。

沖縄県における在外沖繩関連文化財調査の動向

年度	調査名	取組概要
H2 (1990) ~ H6 (1995) 年度	在米国内沖繩関連文化財調査	米国内の博物館・美術館 34 施設及び個人所有の調査を行い、1,041 点の文化財を確認。
H7 (1996) ~ H11 (1999) 年度	在欧沖繩関連文化財調査	ヨーロッパ 10 か国 22 施設に所在する沖繩関連の文化財を対象に 470 点を確認。
H13 (2001) 年度	FBI の盗難品に登録	在沖米軍総領事館を通じ、王冠など 13 件を米連邦捜査局 (FBI) の盗難美術品へ登録申請を行った。登録申請をしたものは FBI のホームページに掲載。
H15 (2003) ~ H18 (2006) 年度	在中国沖繩関連文化財調査	沖縄県教育委員会及び那覇市、中国北京故宮博物院との共同調査を行い、関連文化財約 666 点を確認。

■調査の成果及び展示会などの開催

沖縄戦前後に海外に流出した文化財については、一部返還されたものもある。

また、県や那覇市においては、中国での調査をふまえ、平成 16 (2004) 年に那覇市、平成 20 (2008 年) に沖縄県立博物館・美術館において、里帰り展を開催している。

返還された文化財 (沖縄県立博物館・美術館所蔵)

年	文化財概要
S28 (1953) 年	『おもろさうし』、『中山世鑑』、間得大君雲龍黄金簪など 53 点
S62 (1987) 年	旧大安禅寺鐘 (旧護国寺の鐘) 1 点 旧永福寺鐘 1 点
H3 (1991) 年	旧大聖禅寺鐘 1 点
H13 (2001) 年	「琉球国惣絵図」 6 点

里帰り展等の状況

展覧会名	概要
中国・北京故宮博物院蔵「帰ってきた琉球王朝の秘宝展 沖縄特別展覧会」(那覇市)	会期：H16 (2007) 年 8 月 20 日～9 月 30 日 場所：那覇市民ギャラリー 主催：実行委員会 (那覇市、海洋博覧会記念公園管理財団、沖縄テレビ放送、琉球新報社、沖縄産業計画) 特別協力：中国・北京故宮博物院

展覧会名	概要
沖縄県立博物館・美術館開館一周年記念 博物館特別展 中国 故宮博物院秘蔵「蘇 る琉球王国の輝き」	会期：H20（2008）年11月1日～12月21日 場所：沖縄県立博物館・美術館3階特別展示室・企画展示室 主催：沖縄県立博物館・美術館 沖縄県教育委員会 協力：中国・北京故宮博物院 中国第一歴史档案館、那覇市歴史博物館他

展示図録より抽出

■関連する刊行物(沖縄県文化財調査報告書)

第124 集 在米国沖縄関連文化財調査報告書 (H8.3)

第139 集 在外沖縄関連文化財調査報告書 欧州編 (内部資料) (H12.3)

第147 集 北京故宮博物院沖縄関連文化財調査報告書 (H20.3)

第152 集 在外沖縄関連文化財調査－福建省琉球人墓碑編－ (H29.3)

出典：「文化財課要覧 (令和元年度版)」 (沖縄県教育庁文化財課、令和元年11月)